

40年前の日食を見た話

40年前の明治29年8月9日の北海道における皆既日食では、観測の中心地枝幸は曇天で、折角の日食観測も失敗してゐるが、当時釧路國標茶では晴天で、完全に肉眼で観測が出来たといふ事が、40年前に標茶で實業に従事してゐた現釧路市會議長佐々木米太郎氏によつて判明した。その日食を見た興味ある體驗談……………

本年6月19日日本道で皆既日食の観測が出来ると云ふので世界的に視聽を集めて居りますが、明治29年の日食は曇天のため見る事ができなかつたやうに書いてありますが、成程観測臺を置いて専門家の根城とした厚岸や枝幸は曇天であつたが、川上郡標茶では、朝來曇天のところ、將に日食にかゝらんとする直前に於て太陽の周圍のみ全く晴れ、小兒でも肉眼で見ることができた事實があります。私は、當時、標茶に在住しまして、例の硝子をいぶして、屋外に出で之を體驗した一人ではありますが、この一事が中央に報告されなかつた筈はないやうに思はれますが、何等かの行き違で記録に漏れたのでなからうかと信ずる外ありません。當時同地に鳥田清兵衛と云ふ小金を持つた寫真屋さんがありまして、普通の器械でコロナが明瞭に寫つたと云ふので、札幌農學校(今の北大)から其原板を寄附して貰ひたいと云ふ交渉があつたのに對し、300圓ならば賣りませうといつたといふので、これに對し頗る非難の浮説があつたのであります。今はその寫真屋さんの遺族も同地に居りませんが、該地で舊家が學校でも搜したら或は其の寫真があるかも知れません。若しもあつたら非常な参考になるではなからうかと存じます。由來東北海道地方は、海岸が曇天であつても、山間が快晴の事はまゝあります。當時の觀測の記録は

「明治29年8月9日12時20分より皆既日食あり、2時23分掛り初の時より雲晴れ、同2時28分21秒皆既となり全く暗黒となるや光輝を發し、コロナ現れ漸次明然を認め、4時45分太陽全く現る」とあります。(北海タイムスより)

東京の新天文臺長

既報の如く早乙女清房博士は定年制により東京帝大教授を去る3月末に辭せられたので、中央氣象臺技師關口鯉吉博士が4月15日附を以つて東大教授に任ぜられ、東京天文臺長に新任された。(急報205及207より)